

平成26年度施策評価に係る外部評価シート

担当部局名	市民生活部・協働推進課		
施策名	施策74 男女共同参画の推進		
施策の目的	男女それぞれの立場からお互いを尊重し、責任を分かち合い、性別に関係なく、社会のあらゆる分野において活躍することができるようにします。		
平成25年度決算(千円)	18,129	平成26年度予算(千円)	18,077

※外部評価委員記入欄

評価項目		判断	判断理由	
① 事務事業の妥当性	<p>この施策を構成する事務事業は妥当であるか？</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●当該施策の推進において事務事業の過不足はないか。必要性・重要度が特に高い又は低い事業はないか。 ●施策評価シート「5. 事務事業の検討」の施策内優先度は妥当か。 	A 効果的な構成である	0	●事業の再構成が実施された(決定された)直後である。実績運用での変化を見る必要がある。(B) ●判断理由記載なし。(B) ●とだあんさんぶるプランの作成やDVIに関する啓発活動により、以前より男女共同参画の認識が高まっているように思いますが、今後はさらに企業にも積極的に広報し、女性の社会進出の妨げになっている要因分析をし、企業と共に足並みを揃えることも戦略的には必要である。(B) ●啓発事業以外の施策がどのようなものがあるか。単純化するのには難しいと思うが、一般市民にも広く分かり易い事業展開を。(B) ●「推進事業」のくり方が大きすぎる。施策名と同じ名称になってしまっており、内容を分類し、整理が必要である。 「啓発」以外の取組・事業がせい弱である。 目標値を達成するための実効性のある事業・取組が見られない。(C) ●「男女共同参画」の意義は大変広く、自治事務内での事業構成には重い施策構成に感じます。国の政策との連携を強化構成し、広い意義に対応し、局所的現在の対応構成から、もう少し効果的に国の政策と連携し向上できると判断しました。(C)
		B 概ね妥当である	4	
		C 構成に問題がある	2	
② 施策の進捗状況	<p>施策は計画通り進んでいるか？</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●施策評価シート「3. 施策の指標における成果(主な指標)」、「4. 施策の展開(結果と今後の方向性)」や「5. 事務事業の検討」の成果等を参考とする。 ●施策と事務事業の進捗状況の説明内容 	A 躍進中	0	●「DV」撲滅のための社会のニーズ、傾向を担った施策の一部を担い、今後も啓発・機能してゆくことを担っているように判断しました。(B) ●目標値に照らしてみた場合、「予定通り」とは言い難い。(C) ●施策立案時の目標設定に照らし合わせると未定と考える。(C) ●判断理由記載なし。(C) ●進捗について、内部評価ではCとあるが、上戸田福祉センター再整備事業の中で新たな機会の創出による期待も考えられる。(C) ●各事業の目標数値が少し高いのでは！ 長期的な展開事業を策定する必要があるのでは。(C)
		B 予定通り	1	
		C 遅れ気味	5	
③ 資源の方向性	<p>今後、この施策の資源(人員・予算)の方向性は？</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●施策の目的の達成に向け、現状の人員や予算を来年度以降、どのようにすべきか。 ●個別の事務事業の予算配分は妥当か。 	↑ 増加	1	●今後、日本では女性の社会進出と活用がますます必要になってくる。さらに、女性のライフステージに応じた活躍支援、女性の仕事と子育てを両立できる環境整備、女性の登用推進等をはじめとする施策に対して、さらに積極的に取り組んでいく必要があります。(↑) ●企画立案、推進部門の資源としては一と考える。(→) ●「維持」にしました。ハード面は統合されたかも知れませんが、統合された後の協働によるシナジー効果があると判断しました。(→) ●センター閉館に伴う総事業費の縮小は妥当であるが、事業内容については維持・拡大であり、評価シートの記述には誤解の可能性もある。(↓) ●今まで蓄積してきた情報、人物を資源として有効活用していただきたい。(↓) ●ハード的に掛かる費用が縮小されるが、この体制の中で、むしろソフト面に費用振りを検討する必要があります。(↓)
		→ 維持	2	
		↓ 縮小	3	

④コメント欄(今後の施策運用に関する改善策、その他意見等)

● 施策評価指標の「DVIに関する啓発」は、事業レベルの活動指標であり、難がある。
 ● 行政組織として、それだからできる制度設計(庁内/対社会)の研究の成果が挙がるのが期待される。
 ● どうすれば当初掲げた目標を達成できるか、事務事業のプライオリティを明確に示し、制度設計を含め再構築していく良い時期かもしれません。
 ● 各事業が真摯に取り組まれていると思います。
 この件に関して新たに条例を作る時、センター(ピラー)閉館後の考え方を充分反映して策定を望む。また、この事業に関する理想的な「理念」も含め、その条例案に盛り込んでほしい。
 将来的には、この男女共同参画の事業が必要のない社会を目指すぐらいの目標を！
 ● 「女性人材リストの人数」…算定式、こちらはリスト登録人数には戸田市内の女性人数にも限界があると思う。「啓発」の推進を図るための算定式を使用すべきだと思う。例:登録した内容の開催回数や、参加率等、相互参画したデータで算定式を作る等。
 「タイトルを工夫」としたセミナー申し込み数向上策は実際難しいと思う。パンフレットを見てくる人は、日程・内容が金額・場所より先に来る方が多かったです(私の場合)。タイトル=内容の表現、とした場合、効果はあるかもしれない。参加数向上はどうしてもコネクションによるものが確実でした。そのため、企業や学校、市の行事などとの「タイアップ」による企画の方が、参加人数、啓発の普及、影響も効果的です。